



令和4年12月23日
鹿児島市立紫原中学校

保護者の皆様からの学校評価ありがとうございました！

校長 立部 剛

2学期末に実施しました保護者アンケート結果を掲載します。

保護者の皆様からみた本校生徒の改善すべき点として、「【項目10】分かる授業」、「【項目13】家庭学習の見届け」、「【項目14】家庭学習の習慣」が挙げられます。これらの項目は、いずれも学習に関する内容です。特に授業に関しては、学校において最も充実しなければならない項目であると捉えており、それだけに保護者の皆様からの評価を、学校として真摯に受け止めたいと思います。

また、「【項目6】保護者との連携」、「【項目8】いじめ問題や問題行動への対応」、「【項目17】きめ細かい教育相談」

といった項目にも改善に声が寄せられていると判断しました。子どもたちの変容を敏感に感じ取り、語り、対応するという私たちの日々の積み重ねが子どもたちの成長や安定した学校生活に欠かせないことをもう一度しっかり認識していきます。その際、できれば学校と保護者が同じ方向を見据えて解決を探っていくことが大切です。そのためには、学校は保護者の皆様と直接顔を合わせて話し合うことが必要です。どの部分に教師や保護者が大人として目に見える支援を行うのか、あるいは子どもを見守りつつ、あえて子どもによる解決を促す手立てをとるのか、保護者の皆様としっかり思いを共有しながら進めたいと思います。

アンケート調査へのご協力ありがとうございました。

早いもので、今年の終わ

りも目の前に迫ってきました。この学校だよりも、2学期最後となります。保護者の皆様には今学期も多くのご理解とご支援をいただきました。心より感謝いたします。これから迎える年末、そして新しい年が、皆様にとって素晴らしいものになりますようお祈りいたします。

よいお年をお迎えください。

父親セミナー、男子ソフトテニス部の協力により立派な門松が飾られました

	評価内容	ポイント
1	子どもは学校が楽しいと言っている	3.55
2	子どもは、自分にはよいところがあると思っている	3.76
3	先生は、子どものよいところを認めてくれている	3.60
4	学校は教育方針や学校の様子を通信等でわかりやすく伝えている	3.59
5	学校は、雰囲気がよく、生徒・職員一人ひとりが生き生きとしている	3.23
6	先生方は、保護者と連絡を取り合って、学習面や生活面の指導をしている	3.18
7	学校は、掃除が行き届き、学習環境が整っている	3.57
8	学校は、いじめや問題行動が起こらないように努めている	3.17
9	学校は、社会生活のモラルやルールを守る態度を育てようとしている	3.48
10	子どもは、授業がわかりやすいと言っている	2.87
11	子どもは、教科の課題や宅習に毎日継続して取り組んでいる	3.28
12	家庭では子どもと、将来の進路について話題にし、一緒に考えている	3.68
13	家庭では、子どもの学習（課題）の見届けをしている	2.86
14	子どもは、90分間の家庭学習の習慣がある	2.76
15	子どもは、日頃から積極的にあいさつをしている	3.54
16	学校の生活指導（挨拶・服装・持ち物・容儀等）は、適切に行われている	3.64
17	先生は、生徒の悩みを聞き、その相談にのっている	3.15
18	学校は、生徒の健康や安全に関する指導を適切に行っている	3.53
19	学校行事は、コロナ禍で、工夫して実施されている	3.72
20	部活動は、活発で充実している	3.55
21	学校は、保護者や地域の声に耳を傾け、適切に対処している	3.44
22	スマホやタブレットを使う時は、家庭内でルールを決めている	3.67

※表中ポイントは
5段階評価の平均値

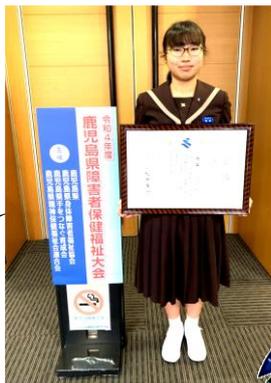


〜〜〜 「彼が変えてくれた世界観」 3年 横峯花音さん 〜〜〜

内閣府では、障害の有無にかかわらず、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合う「共生社会」を目指し、障害や障害のある人に対する国民の理解と関心を深めること等を目的として、都道府県・指定都市との共催により、「心の輪を広げる体験作文」の募集・表彰事業を実施しています。今回の横峯さんの作文は、鹿児島県代表として推薦された作文になります。

「私もできるようになって話をしてみたい。」と私の友達に話したことが指文字を覚えるきっかけであった。2年生の時、一人の同級生と出会った。彼は、耳が聴こえづらく、補聴器をつけている。周りの人たちは、多種多様な方法で彼と会話していた。クラスは違ったが、後期になったとき、同じ生徒会役員になった。そして、3年生になって、初めて同じクラスになった。席が近くになり、少しずつではあったが、話をする機会が増えた。そんなとき、手だけで話をしているところを見かけた。始めは、手話かと思ったけれど、指文字だということを知った。私は、思い切って「指文字、教えて。」と彼に言ってみた。彼は、快く教えてくれた。私は、指文字で話ができることをうれしく思っ、必死になって覚えた。友達と指だけでしりとりをしたり、鏡を見ながら言葉を作ったり、工夫しながら覚えた。

覚えてから、一カ月がたった頃、思わぬところで役に立ったことがあった。彼が、友達と話をしていたとき、何度聞いても聞き取ることのできなかつた言葉があった。近くに私がいたので、彼に指を使って伝言するような感じでやってみた。すると、うまく伝わらしく、話が進んだ。また、聞き取ることのできなかつた放送も指文字で伝えた。うまく伝えられたときは、テストで満点をとったときよりもうれしくて、自分に自信がついた。私はこの体験を通して考えたことが2つある。1つ目は、なぜ学校では指文字を授業で教えないのか、ということである。点字は、小学校の教科書に載っていたが、指文字は載っていない。「ふれあう」という点では同じだけれど、教えることができない理由があるのだろうか。もし、ないのならば、私は学校の授業で教えるべきだと思う。教えたときの利点として挙げられることは、すべての人と話をするのができ、障害のある人が、少しでも暮らしやすくなるということである。つまり、ユニバーサルデザインである。歩道に見られる点字ブロックやスロープのように、日常的に見られるようなものになれば、誰にとってもうれしいことであり、すばらしいことではないだろうか。2つ目は、自分と同じではないことも認め合い、たくさんの人と関わるといことである。話をするには、時間がかかるかもしれない。しかし、挨拶を交わすくらいならすぐにできる。道を歩いているとき、誰かとすれ違うとき、「おはようございます。」と言ったり、会釈をしたりする。ほんのささいなことのように感じられるかもしれないが、続けることによって、意思疎通ができるようになるのだと思う。今思えば、彼と同じクラスになったのは、奇跡であり、私の世界観を変えてくれた大切な友達である。



教室でも指文字を見る機会が増えてきた。たくさんのクラスメイトが、指文字を覚えようと必死になっているのだ。このままクラスの全員が指文字ができるようになればよいと思う。そうすれば口で話をしなくても心と心が通じ合うすてきなクラスになると思う。一人のためたと思うのではなく、最終的にみんなのためになると思っ、することが大切である。

大人になったら、中学校生活とは違い、世界中の人との関わり合いながら生きていくことになる。つまり、様々な障害をもった方々にも、出会う日が来るということである。もし、どこかで挨拶をしようと思。私は、中学校生活で学んだことを活用しながら生きていかないと、社会では通用

しないと感じる。だから、教えてもらった指文字も大切にしながら過ごそうと思う。



【1月のおもな行事】

※予定でするので変更になることがあります。

- 1/10(火) ・ 3学期始業式
- 1/11(水) ・ 3年実力テスト
- 1/12(木) ・ 3年私立入試事前指導
- 1/14(土) ・ キャリア教育講演会
- 1/17(火) ・ 鹿児島学習定着度調査①
- 1/18(水) ・ 鹿児島学習定着度調査②
- 1/23(月) ・ 私立高校入試(～29日)
- 1/27(金) ・ 1・2年生学校自由参観(午前中)

- 第35回スーパータニマ旗中学校男子バレーボール大会 第3位
- 第1回鹿児島市中学男子バレーボールチャレンジリーグ戦 Bブロック第1位 最優秀選手賞2年1名

いじめ問題を考える週間～14日(土)

●第9回秋季市新人中学校サッカー大会優勝!!

